

小学校

平成 7 年 度

# 教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

平成7年度

教育研究員名簿

第1分科会

地区名	学校名	氏名
江東	大島中央小	宇賀神 佳子
品川	第一日野小	宮内 真理
杉並	大宮小	古田 節子
豊島	池袋第三小	◇和田 ケイ子

地区名	学校名	氏名
板橋	板橋第七小	柴崎 英美子
練馬	石神井小	市橋 裕子
足立	中川北小	○山本 洋
葛飾	清和小	遠藤 貢市

第2分科会

地区名	学校名	氏名
中野	桃園第三小	◇板橋 千鶴子
練馬	田柄小	土屋 康子
足立	梅島第一小	緑川 正子
小平	小平第一小	岡本 治美

地区名	学校名	氏名
武蔵村山	第三小	◎池谷 光二
多摩	南鶴牧小	薄井 信幸
あきる野	五日市小	○中野 和人
八丈	末吉小	後藤 馨

第3分科会

地区名	学校名	氏名
新宿	淀橋第四小	◇東風 安生
大田	大森第三小	藤本 禎子
世田谷	三宿小	太田 圭子
江戸川	大杉第二小	木村 多恵

地区名	学校名	氏名
調布	大町小	○渡邊 真
日野	日野第五小	折笠 玉典
清瀬	清瀬小	田中 純江

第4分科会

地区名	学校名	氏名
世田谷	等々力小	◇松本 武嗣
北	豊川小	○園部 謙一
板橋	高島第五小	松本 和子
江戸川	東小松川小	岡田 伸一

地区名	学校名	氏名
八王子	由木西小	佐藤 浩
三鷹	第一小	林 信広
町田	相原小	宮本 玲子
国分寺	第四小	上村 一美

◎全体世話人

○分科会世話人

◇分科会副世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 後藤 忠

## 研究主題 よりよく生きる力を育てる道徳授業

### 目 次

◇ 研究主題について .....	2
◇ 研究主題の概要 .....	3
I 肯定的な自己理解を育む指導の工夫（第1分科会） .....	4
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 肯定的な自己理解を育む指導の工夫	
4 実践事例	
II 他の人との心の交流を深める指導の工夫（第2分科会） .....	9
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 他の人との心の交流を深める指導の工夫	
4 実践事例	
III 生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫（第3分科会） .....	14
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫	
4 実践事例	
IV 奉仕の心を育てる指導の工夫（第4分科会） .....	19
1 分科会テーマ設定の理由	
2 児童の実態調査	
3 奉仕の心を育てる指導の工夫	
4 実践事例	
◇ 研究の成果と今後の課題 .....	24

#### ＜ 概 要 ＞

本部会では、研究主題解明に当たり、学習指導要領に示された内容の4つの柱に基づいて分科会を構成し、授業研究を通して実証的に授業改善に取り組んだ。

研究の方向を、児童が本来的にもっているよりよく生きようとする願いを大切に、積極的に児童のよさや可能性を見出し、それを認め、伸ばすことに置いて進めた。

その結果、児童が自らのよさに気づき、それを生かそうとするようになるためには、児童の学習支援を中心とする指導の工夫が大切であることが分かった。

## 研究主題

### よりよく生きる力を育てる道徳授業

#### ◇ 研究主題について

人間は、本来人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。この願いの現実を目指して生きようとするところに道徳が成り立つ。

戦後50年を迎え、経済の成長と科学技術の進歩はめざましく、国民の生活も豊かで便利なものになってきた。しかし反面、家庭や地域社会の教育力の低下や学歴偏重の弊害等が顕在化し、いじめ等多くの問題が深刻化してきている。今あらためて、生命の尊重や自他敬愛、自己抑制、社会奉仕等の心を育てる教育が、真剣に見直されなければならなくなってきた。これからの新しい時代を生きる子供たちが、どのような道徳性を身に付けるかによってどのような社会が創造されるかが決まる。この意味で学校における道徳教育の役割は重い。

道徳教育は学校の教育活動全体を通して行うことを基本とするが、こうした道徳教育を、計画的、発展的な指導によって補充し、深化し、統合し、日常の生活の様々な場面や状況において道徳的価値を実現することができるような資質や能力を育成する道徳の時間の指導の充実が極めて重要である。

そこで、研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」に迫るため、昨年度と同様に、本年度も道徳の指導内容の4つの視点から、それぞれの目指す児童像を掲げ、分科会ごとのテーマに沿って研究を進めた。第1分科会では、自分を振り返り、肯定的な自己理解ができ向上していく児童を目指して、「肯定的な自己理解を育む指導の工夫」、第2分科会では、素直に心を開き、互いに認め合い、高め合おうとする児童を目指して、「他の人との心の交流を深める指導の工夫」、第3分科会では、生きていることのかげがえのなさに気づき、自らを高めようとする児童を目指して、「生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫」、第4分科会では、社会や集団のために進んで行動できる児童を目指して、「奉仕の心を育てる指導の工夫」をテーマとした。

これらのテーマを追究するに当たり、授業研究を通して、一人一人の児童が自分のよさを発揮して意欲的に学習に取り組み、自ら考え、自律的に判断し、伸び伸びと表現できるような道徳授業の在り方を探っていきたいと考えた。

◇研究の概要

豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成

研究主題  
よりよく生きる力を育てる道徳授業

第1分科会

第2分科会

第3分科会

第4分科会

<目指す児童像>  
自分を振り返り、肯定的な自己理解ができ、向上していく児童

<目指す児童像>  
素直に心を開き、互いに認め合い、高め合おうとする児童

<目指す児童像>  
生きていることのかげがえのなさに気づき、自らを高めようとする児童

<目指す児童像>  
集団や社会のために進んで行動できる児童

<分科会主題>  
肯定的な自己理解を育む指導の工夫

<分科会主題>  
他の人との心の交流を深める指導の工夫

<分科会主題>  
生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫

<分科会主題>  
奉仕の心を育てる指導の工夫

<仮説>  
資料中の登場人物に共感し、生活経験に照らして自己を見つめ、そのよさに気づくことができる指導を工夫していけば、肯定的な自己理解ができ、よりよく生きようとする児童を育成することができる。

<仮説>  
思いやりの気持ちを持ち、自ら他の人にかかわることによって共に生きていこうとする心を育てる指導の工夫をすれば、「素直に心を開き、互いに認め合い、高め合おうとする児童」を育てることができる。

<仮説>  
命の尊さを感じる心や自然や崇高なものに感動する心を育てる指導を充実すれば、生きることのかげがえのなさに気づき、自らを高めようとする児童を育てることができる。

<仮説>  
働くことにかかわる資料を通して社会での自分の生き方を振り返ることのできる指導を工夫すれば、奉仕の心が育てられる。

<指導の工夫>  
・学習過程の中に、自己をみつめる場、自己理解を深める場、自己の生き方に反映する場の三つの場を設定する。  
・それぞれの場において学習活動の工夫をする。(資料の吟味、資料提示、話し合い活動、書く活動)

<指導の工夫>  
・学習過程の中に、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する場、友達思いや考えを受け入れ、認め合う場、深まった思いや考えを発揮する場の三つの場を設定する。  
・それぞれの場において学習活動の工夫をする。

<指導の工夫>  
・学習過程の中で、資料に十分浸れるような場の設定をする。  
・役割演技や効果的な発問によって登場人物の心情に迫ることができる学習活動の工夫をする。

<指導の工夫>  
・児童の共感を呼び、勤労・奉仕に関する体験が想起できる資料の選択、開発、提示の工夫  
・勤労・奉仕に関する体験を一人一人が自ら振り返る支援の工夫  
・自分の体験と友達の体験の違いに気付いたり、お互いのよさを認め合ったりする学習過程の工夫

検 証 授 業

総合的評価 (指導計画, 指導方法, 児童の変容)

## I 肯定的な自己理解を育む指導の工夫（第1分科会）

### 1 分科会テーマ設定の理由

経済的発展を遂げた今日、人々は心の豊かさや自分とは何かといった問題に目をむけはじめている。またいじめや不登校などの教育問題が社会問題化する中で、自分自身を肯定的にとらえることができにくい児童の現状も浮かび上がってきた。

しかし、児童は本来よりよく生きたい、人や社会、自然などのかかわりの中で自分が生き、そして生かされたいという願いをもっている。したがって、児童が対象と心を通わせ、じっくりと自分を見つめ、感じ、考える中で、内在している自分のよさに気づき、そのよさを十分に伸ばしていくことができるようになれば、そのかけがえのない生涯を豊かに生きることにつながっていくと考える。

#### ◇肯定的な自己理解のとらえ方

私たちは児童が「自分をかけがえのない存在であると自覚し、あるがままの自分を正しく見つめながら、そのよさを伸ばし、進んで自己課題に取り組むようになること」をめざして研究を進めることにし、主題を「肯定的な自己理解を育む指導の工夫」と設定した。

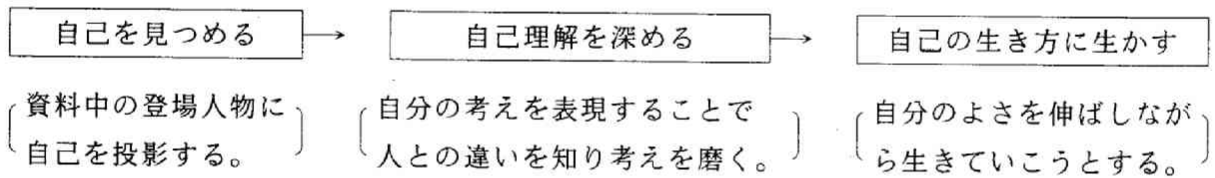
児童が味わう達成感や満足感は自信や生きる喜びとなり、自己実現に向けて生きる原動力となる。自己を肯定的に見つめることができる児童は、次のようなよさがあると考えた。

- 自分のよさに自信や誇りを感じ、より難しい課題に挑戦する意欲がもてる。
- 失敗体験を生かし、その弱さやもろさの克服を自己課題とすることができる。
- 人間のもつ強さや弱さを自覚し、謙虚な気持ちで他の人のよさを学び、共に伸びようとするすることができる。

#### ◇肯定的な自己理解を育む指導の視点

肯定的な自己理解を育むために、次のような視点に立って道徳の時間を進めることにした。

##### ○ 児童が自己を肯定的に見つめる過程



##### ○ 教師の姿勢

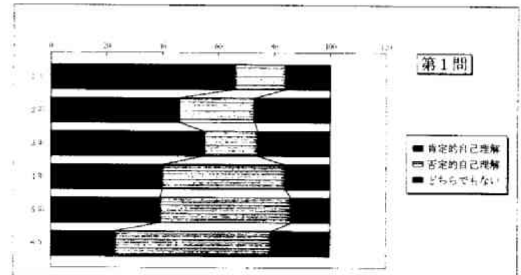
- ・ 児童が十分活動できる場を確保する。
- ・ 児童の活動を見守る。

## 2 児童の実態調査

- (1) 調査の目的 児童が自分自身をどのように考え、どの程度理解しているか把握し児童自身がよりよい自己理解を進め、自分を向上させる力を育む指導の工夫に役立てる。
- (2) 調査の方法 質問紙法による自由記述と選択技法を用い、全学年同一内容で実施
- (3) 調査の結果

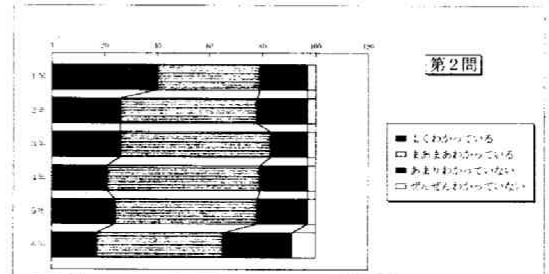
設問1 あなたは 自分をどんな子だと思いますか。  
 思ったことを自由に書いてください。  
 (主な回答)

肯定的	否定的	どちらでもない
いい子 明るい子 元気な子 おもしろい子 やさしい子 遊びが好きな子 運動が好きな子	いじわるな子 わがままな子 けんかする子 悪い子 おしゃべりな子 おっちょこちょい 頭がわるい子	普通



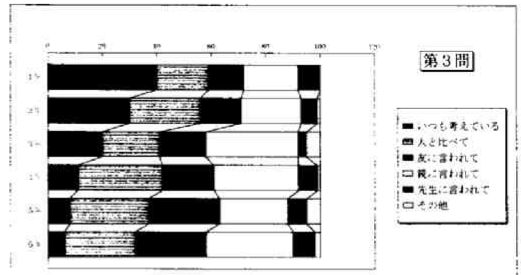
設問2 あなたは 1の質問に答えるときどんな気持ちでしたか？

- ① すぐに考えついて自分のことをよくわかっているな。
- ② 少し考えたけれど自分のことをまあまあわかっているな。
- ③ 書くことがなかなか思いうかばなくて自分のことをあまりわかっていないな。
- ④ 書くことが思いうかばなくて自分のことぜんぜんわかっていないな。



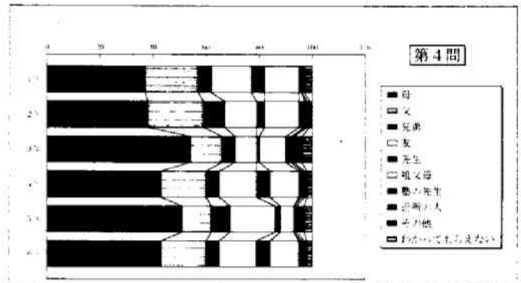
設問3 自分にはこんなところがあるのだと気がつくのは、  
 どんなときですか？

- ① 自分が どんな子なのか いつも考えているから。
- ② 自分で 人とくらべて考えつくから。
- ③ 友達から言われたとき。
- ④ 親から言われたとき。
- ⑤ 先生から言われたとき。
- ⑥ その他 [ ]



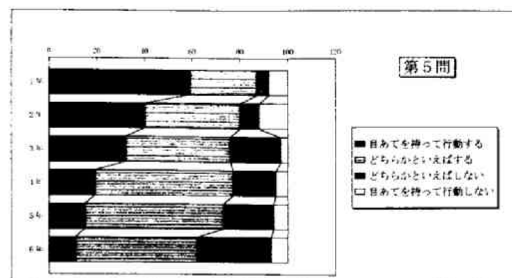
設問4 あなたのことを一番わかっていてくれる人はだれですか？

- ①母 ②父 ③兄弟姉妹 ④友達 ⑤学校の先生
- ⑥おじいちゃん・おばあちゃん ⑦塾やおけいこの先生
- ⑧近所の人 ⑨その他 [ ]
- ⑩誰にもわかってもらえていない。



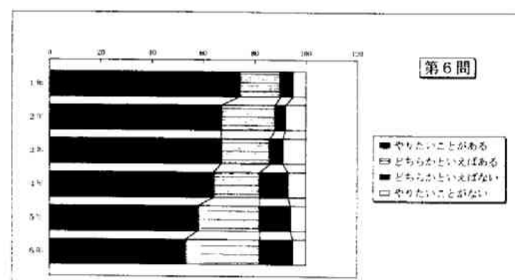
設問5 あなたは何かやろうとするとき自分のめあてを  
もって行動しますか？

- ①はい ②どちらかといえば、はい  
③どちらかといえば、いいえ ④いいえ



設問6 あなたは、夢や将来にやりたいことがありますか？

- ①はい ②どちらかといえば、はい  
③どちらかといえば、いいえ ④いいえ

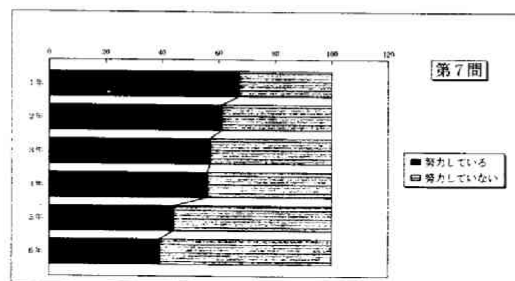


設問7 あなたは、夢や将来にやりたいことのために努力していることがありますか？

- ①ある ②ない

〔具体例〕

- ・ 保育になりたいので、小さい子との遊びの工夫。
- ・ 板前になりたいので料理の練習。
- ・ ピアニストになりたいので、ピアノの練習。



#### (4) 調査の考察

（設問1・2） 低学年の児童は、自分を肯定的に見ることが多く、その内容は「運動が好きな子」のように自分の好きなことや得意なことが多い。高学年になると自分を否定的に見る傾向が強くなり、その内容も容姿、性格、勉強のことが多くなる。また、学年が上がるにつれて、自分のことを「よくわかっていない」と答える児童が多くなっている。これは学年が上がるにつれて自分を見つめる見方が厳しくなっていくためと思われる。

（設問3） 自己への気付きは、学年が上がるにしたがって、人との比較や親や友達に言われたことが多くなる。特に、一番身近な親の言葉に影響を受け、高学年になると友達の存在も大きな役割を占めるようになる。これは、自分の視野が広がり、他の人とのかかわりを重視するようになるという発達段階によるものと考えられる。

（設問4） 自分の理解者は、どの学年も「母」との答えが多い。また、児童の自己への気付きのきっかけや理解されている人に教師の姿があまりでてこないことは考えさせられる点である。

（設問5・6・7） 低学年ほど前向きにめあてをもって行動していると答え、高学年になるにしたがって消極的になってくる。高学年が自己を否定的にとらえがちな傾向と考え合わせると、自分への自信のなさが影響していると思われる。しかし、高学年に、夢や将来への具体的な努力の姿を見ることができると、したがって肯定的に自己を見つめ、そのよさに気付き、自分自身に自信をもつことができれば、よりよくいきようとする意欲がふくらんでいくと考える。

このようなことから、道徳の時間を中心にした肯定的な自己理解を育む指導の必要性を強く感じ、その指導を工夫することが大切であると考えられる。



### 3 『肯定的な自己理解』を育む指導の工夫

<p>事前指導の工夫 (児童理解の工夫)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調査…質問紙法による診断テストや日常の観察などから、授業のねらいに即した学級の傾向をつかみ、指導過程に生かすようにする。また一人一人のよさや弱さを把握し、支援に生かすようにする。</li> <li>・児童と接する時間を大切にし、班ノートや道徳の時間の「心のノート」を通して、児童の肯定的な自己理解の深まりを把握するよう努める。</li> <li>・教師は児童の意見や考えに対し、受容的、共感的、肯定的に受けとめるようにし、児童も互いの意見を認め合ったり、励まし合ったりしながら自由に自己を表現できる雰囲気をつくる。</li> </ul>
<p>資料選択の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいに即し、児童の実態に合った分かりやすく、臨場感あふれる内容の資料を選ぶ。</li> <li>・児童が登場人物に共感しながら肯定的な自己理解ができる資料を用いる。</li> </ul>
<p>指導過程の工夫</p> <p>(導入)</p> <p>(資料提示)</p> <p>(発問)</p> <p>(役割演技)</p> <p>(話し合い)</p> <p>(書く活動)</p> <p>(展開後段や終末)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の変容を見取るための観点として、展開案の中に「肯定的な自己理解とのかかわり」の欄を設ける。</li> <li>・教師や友達の体験を聞くことにより、自己を肯定的に見つめるための方向付けをする。</li> <li>・児童が登場人物のよさや弱さを感じ取ることができるよう、内容に応じた具体物を提示する。</li> <li>・場面絵を効果的に用い、場面や状況を十分に把握できるようにする。</li> <li>・肯定的な自己理解を育む観点から、児童自らが課題意識をもつような発問や、多様な感じ方、考え方がもてるような発問を精選する。</li> <li>・学級全員が登場人物になりきって、ありのままの自己を表現できるようにする。</li> <li>・役割演技を見ている児童も、自己を振り返り、気持ちを表現できるようにする。</li> <li>・相互指名や小集団での話し合いなど、学習の目的に応じた話し合い活動を取り入れ、肯定的な自己理解を深めるとともに、互いの考えの交流を深めるようにする。</li> <li>・肯定的な自己理解を深めるために、登場人物の気持ちや自己の考えを書く活動を用意する。</li> <li>・自己の生き方の課題が自覚できるよう、自己や友達の体験や気持ちを表現し合うことにより、肯定的な自己理解を深める。</li> </ul>
<p>事後指導の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会、帰りの会などで、児童のよさが表れている行動や作文などを賞賛する。</li> </ul>

#### 4 実践事例（6 学年）

- (1) 主題名 新しいものを求めて（1-5）創意工夫 資料名「ミッキーマウスの誕生」
- (2) ねらい 新しいものを求め、柔軟に創意工夫して生活していこうとする意欲を育てる。
- (3) 指導の実態（抜粋）

- ① T 「ミッキーマウス」の漫画映画がさっぱり売れなかったとき、デイズニーは、どんなことを考えたでしょう。  
C 他にどんな工夫をすればよいのか。  
C 妻や友人の励ましにこたえたい。  
C 何とか新しい工夫を考え出したい。
- ② T 「ミッキーマウス」の漫画がトーキーなどを取り入れて、大成功したとき、デイズニーは、どんな気持ちになりましたか。  
(絵をプロジェクターで拡大して提示。挙手による相互指名)  
C 努力したかいがあった。あきらめないでよかった。  
C リリアンやアブのおかげだ。  
C 音の出るものを考えたり、トーキーを取り入れたりしたことがよかった。
- ③ T デイズニーは、いろいろ工夫して最後には成功したのですが、みなさんは、今までに学校や家庭生活の中で何か工夫をしてよくなったことがありますか。また、そのときの気持ちはどうでしたか。  
{ BGMを聞き、集中して、主人公の生き方をもとに、実際に自分がどのような生活してきたかを、その気持ちとともに思い描いた。}  
C 夏休みの自由研究で、折り紙で「動物園」を作りました。「もう少し、動物を増やしたり、周りの飾りなどを増やしたりすればよかったな」と思いました。  
C 社会科で「織田信長」の新聞を作るときに、読む人にも分かりやすくするため、絵や図を入れたり、字の大きさを変えたりした。友達にもほめられて、工夫してよかったと思いました。

#### (4) 考察

- ・主人公の生き方に共感し、共感した主人公の生き方をもとに、よりよい自己のイメージを思い描くことは、自己を見つめ自己のよさに気付く点で有効であった。
- ・展開後段において、「できなかった」経験を聞くのではなく、「もう少し工夫すればよかったな」という経験や「できた」経験を聞くことにより、児童がこれまでの自己を肯定的に振り返ることができた。
- ・わかりやすく、成就感の味わえる資料を選んだことは、児童が主人公に共感しながら考えることができた。しかし、児童一人一人が自己課題をもって学習することができる指導を工夫する必要がある。

## Ⅱ 他の人との心の交流を深める指導の工夫（第2分科会）

### 1 分科会テーマ設定の理由

「よりよく生きたい」という願いは児童一人一人の心の中にある。児童がその願いの実現を求めて生きていくためには豊かな人間関係を築くことが欠かせない条件になる。ところが、児童の世界で人間関係の希薄化、交流の皮層化が問題となっている。

豊かな人間関係の構築は「信頼関係」に基づく。「信頼関係」は他者を認め、他者から認められる関係のことである。「認める」というのは、その人の一部を認めるというのではなく、そのすべてを認めることである。それは相手をおもてなしに受け入れることから出発する。そのためには、まず自らの「心を開く」ことが必要である。まず自らの心を開き、相手を受容し、認めると、その相手もまた自らの心を開くようになってくる。このような受容的で共感的な雰囲気があると、児童一人一人の心の中に互いを認め、励ます雰囲気が生まれてくる。このようにして互いの心の交流を図ることができるようになるのではないかと考える。

以上のことを踏まえて道徳の授業においては

- ① 自分の思いや考えを伸び伸びと表現する場
- ② 友達の思いや考えを受け入れる場
- ③ 深まった思いや考えを発揮する場

の工夫を考えることにした。

また、これら3つの場を分離して設定するのではなく、3つの場は密接にかかわっているもの、一連の関係にあるものにとらえて研究を進めることにした。

### 2 児童の実態調査

(1) ねらい 児童の友達に対する意識の傾向を把握することにより、分科会研究主題の解明及び指導の工夫に役立てる。

(2) 方法 選択技法及び記述法を用い、全学年同一内容にした。

調査対象は、都内9小学校の小学生 合計2,213名

(低学年642名・中学年769名・高学年802名)

(3) 結果と考察

**質問 1** あなたは今よりも友達を増やしたいと思いますか。思う・思わないに○をつけ、その理由を1つか2つ選んでください。

〈思う理由〉

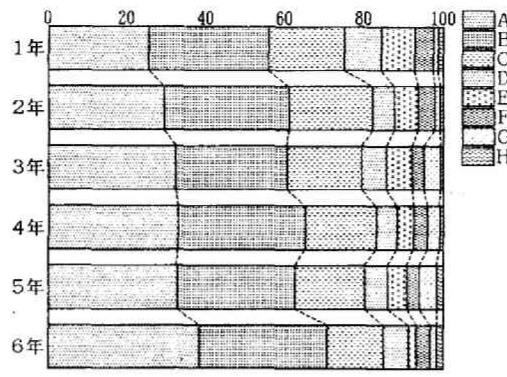
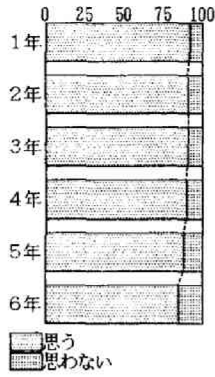
- A 多い方が楽しい B 色々な友達と遊べる C もっと仲良しの友達が欲しい D 多い方が安心だ  
E 1人になってしまう F 多い方が信用されているようがいい G 増えれば話しかけてもらえる H その他

〈思わない理由〉

- A 今の友達で十分 B 人数が増えると喧嘩やめめ事が増える C 気の合わない人と友達になってもつまらない  
D 気の合う人とだけ遊びたい E 新しい友達ができて遊ぶ暇がない F つき合いが大変 G その他

全学年を通して、約90%の児童が「友達を増やしたい」と思っている。その理由として半数以上の児童は、「おおぜいで遊んだ方が楽しい」と答えている。特に地域的に自然に恵まれた環境の中で生活している児童は、多人数で遊ぶ楽しさを体験していると推測できる。

また、「もっと仲良しの友達が欲しい」と答えている児童が、各学年に20%程度見られ



思う理由

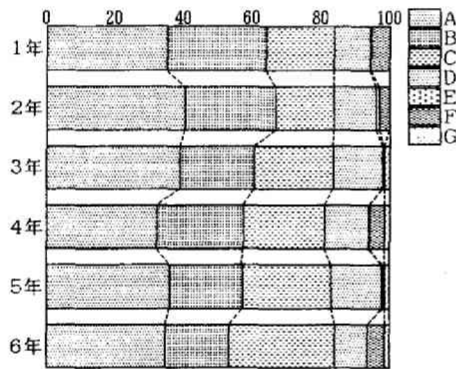
が進むにつれ、遊ぶ時間が減少してくるからであろう。

また「友達を増やしたいと思わない」理由の中では、「今の友達で十分」という答えが比較的多い。それは、現状の友達関係で満足しているからと考えられる。

る。友達関係を今以上に深めたいと思っているのではないだろうか。

友達を「増やしたいと思わない」児童は、高学年になるにしたがってわずかながら増加する。学年

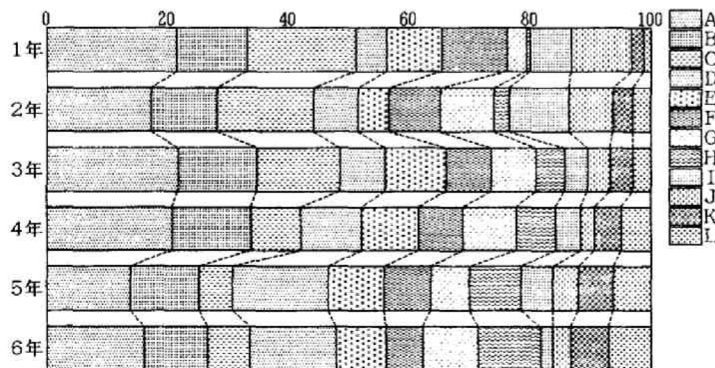
**質問2** 友達から「遊ぼう」といわれたらどう思いますか。1つか2つ選んでください。  
 A うれしい B 絶対遊びたい C 暇なら遊びたい D 気の合う(仲のよい)人なら遊びたい  
 E わからない F 遊びたくない G その他



友達から誘われると「うれしい」と思う児童は全学年にわたり多い。また「遊びたくない」と思う児童は極めて少ない。

しかし「絶対に遊びたい」という児童は学年を追うごとに減少している。児童の生活スケジュールが過密で、自由に使える時間が少なくなっているのではないだろうか。

**質問3** あなたにとって友達とはどういう人ですか。1つか2つ選んでください。  
 A よく遊ぶ人 B 大切な人 C 優しい人 D 相談できる人 E いつも話をする人 F 助け合う人  
 G 気の合う人 H 信頼できる人 I 味方になってくれる人 J 助けてくれる人 K 頼れる人  
 L わかり合える人



友達を「相談相手」ととらえる児童が、学年を追うごとに増加している。

低学年にとって友達とは「遊び相手」であり、「助けてくれる」存在で自分に対して「優しい人」と受け止めている児童が多い。

また、学年が進むにした

がって、友達関係の在り方も多様になり、深まりも増してくる。

### 3 他の人との心の交流を深める指導の工夫

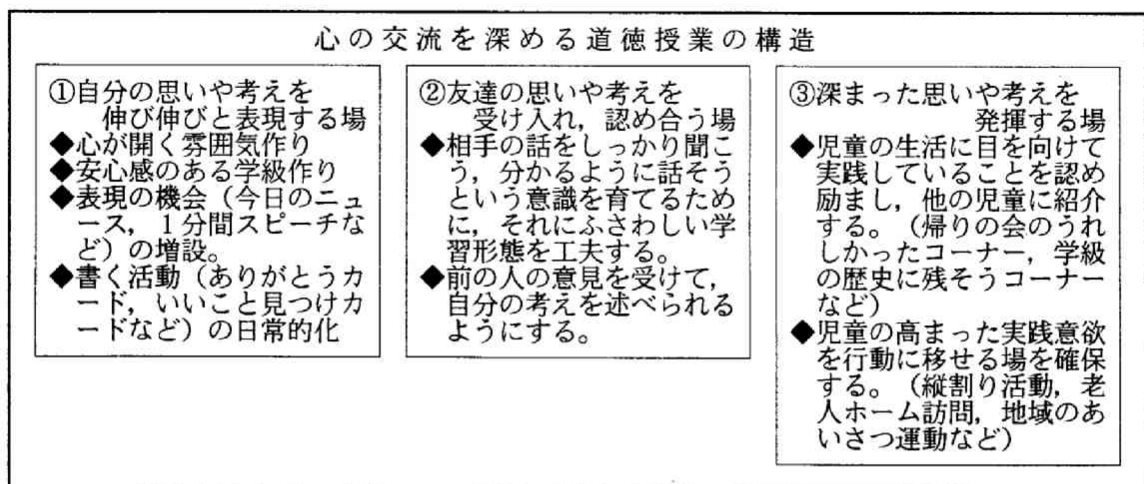
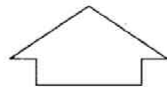
「心の交流」とは、互いの心が動き始めたところから始まる。やがて心と心が触れ合い、通じ合うことにより、互いに理解しあい信頼感をもつようになる。

互いに顔を見つめ合う、うなずき合う、語り合う、という表れを「心の交流」の始まりととらえ、その深まりを求めて指導を工夫することとした。

指導の工夫として、以下のような場を設定した。

#### 心の交流を深める道徳授業の構造

	場の設定	意義	支援の観点	学習活動
①	自分の思いや考えを 伸び伸びと表現する場	・自分から相手にかかわっていき、より自己実現しようという意欲がもてる。	◇体験を想起することができるようにする。 ◇児童が表現方法を選択できるようにする。 ◇児童の表現は最後まで受容的に受けとめる。	○話し合い活動 ・ハンドサイン ・カラーコーン ・相互指名 ・サインボード ・バズセッション ・ペア学習 ・グループ学習
②	友達の思いや考えを受け入れ、認め合う場	・相互に理解し合い尊重し合える。 ・友達の『よさ』に気付くことができる。 ・互いの『よさ』を知り合える。	◇話し合い活動が活発になるように、発問の工夫、学習形態の工夫など、多様な手だてを講じる。	○書く活動 ・ワークシート ・道徳ノート ・手紙 ・絵 ・吹き出し ・感想文
③	深まった思いや考えを 発揮する場	・豊かな人間関係を築いていこうとする意欲がもてる。	◇児童が自分自身を振り返ることができるようにする。 ◇実践意欲をもてるようにする。	○役割演技・動作化



道徳の時間の学習過程の中に以上のような場を設定し、研究授業を行ってきた。また、指導案の展開部分には「心の交流を深める場の設定・工夫」の欄を設け、一人一人の児童の学習支援に役立てるようにした。

#### 4 実践事例（第2学年）

(1) 主題名 助け合う友達（2-(3)信頼友情）

資料名 「ゆっきとやっち」（文部省「読み物資料とその活用」）

(2) ねらい 友達と仲良くし、助け合おうとする気持ちを育てる。

(3) 指導の工夫

「他の人との心の交流を深める」ために本授業では、以下のような場の設定をし、指導の工夫を行った。

①自分の思いや考えを伸び伸びと表現する場

- ・役割演技により、登場人物の気持ちに迫れるようにする。
- ・ワークシートの活用により、個々の考えを確かめたり、まとめたり、深めたりすることができるようにする。

②友達の思いや考えを受け入れ、認め合う場

- ・話し合い活動を通して、自分と同じ考え方、あるいは、違う考え方をする友達の存在に気付き、そのよさに共感できるようにする。

③深まった思いや考えを発揮する場

- ・話し合い活動を通して、学習したことの意識を高め、今後よりよい友達関係を築いていこうとする意欲がもてるようにする。

(4) 指導の実際（抜粋）

T やっちに自慢されたとき、ゆっきはどんな気持ちだったでしょう。

<②友達の思いや考えを受け入れ、認め合う場の設定－話し合い活動>

C すごい、いやな気持ち。

T 少し考えたら、まわしていきましょう。

相互指名によって、「～くんと少し似ていて～です。」というように友達の意見と比べて自分の意見を発表することができた。安心して話せる雰囲気が出ています。

C 少しいやな気持ち。やっちは速いから、自慢するのも仕方ないよな。

C 言葉では言っていないけれど、心の中で「負けないぞ」と思っている。

C 飛ぶのを競争して、「やっちは速くていいよな」と思っている。

C ゆっきはやっちに自慢されて、「どうして速く飛べるのかな。」と思っている。

T やっちはゆっきのほうが後から来たのに、ゆっきに追いつかれてしまいました。やっちが苦しんでいるのを見て、ゆっきは迷ってしまいました。どんなふうに迷っているのかな。（ワークシートを配る）ゆっきの心の中のつぶやきをここに書いてみましょう。

<①自分の思いや考えを伸び伸びと表現する場の設定－ワークシート>

<②友達の思いや考えを受け入れ、認め合う場の設定－話し合い活動>

C どうしよう。お母さんたちに知らせた方がいいかなあ。あと、気にしないでいいからっていっても、僕の友達をおいていくことなんかできないよ。一緒にゴールへいこうよ。

- C どうしよう。やっちがおなかが痛いっていつてるよ。友達だから、ほっとくわけにはいかないよ。でもやちは先にいけよって言うし、どうしよう。

書き出せない児童やどちらか一方の気持ちしか書けない児童には、机間指導で場面絵を提示し、迷う心に気付くようにした。その結果、ほとんどの児童がゆっきの気持ちに共感していた。全員が発表する中で、友達の思いを知り、自分のワークシートに書き加えていく児童も見られた。友達の考えを受け入れ、自分の考えを深めることもできた。

- T (ワークシートを机の中に入れるよう指示する。) やっちとゆっきは、並んで飛んでいくときどんな気持ちだったか、隣の人とやっちとゆっきをきめてやってみましょう。途中でやっちとゆっきを交代してもいいですよ。

<①自分の思いや考えを伸び伸びと表現する場の設定－役割演技>

- C ゆっき 「もうおなかだいじょうぶ？」  
やっち 「じまんしていてごめんね。」  
ゆっき 「今度はやっちが勝てるよ。」  
やっち 「うん。頑張ろうね。」  
ゆっき 「もうすぐゴールだね。いっしょに行こう。」  
やっち 「じゃあ、同じぐらいの速さで行こう。」

どの児童もやっちやゆっきに共感し、一緒に力を合わせて頑張ろうという気持ちがよく表れていた。登場人物の心情に共感するための工夫(役割演技)は効果的であった。

- T お友達と助け合ってよかったなあと思ったことがあったら言ってみてください。掃除の時間とか給食の時間とか先生はたくさん見たことがありますよ。

<③深まった思いや考えを発揮する場の設定－話し合い活動>

- C わたしが国語の教科書を忘れたとき、貸してくれました。  
C ひっかかれて保健室に行くとき、給食当番をタッチしてくれた。  
C ドッジボールのとき、顔に当たったとき、だいじょうぶと言ってくれた。

友達の考えを聞いて、自分の経験を思い出す児童も多く、話し合い活動は有効であった。ありがとうカード(友達思いのやさしい行動を見かけたら友達に紹介する。)に書かれてあったことなどを思い出し、日頃の自分の行動を振り返ることで、今後も助け合おうという意欲がもてた。

(4) 考 察

- ・コの字型の学習形態をとることにより、相互指名を有効に使うことができ、多くの友達の考えを知りたいという気持ちを満たし、高めることができたことは、話し合い活動によく表れていた。
- ・発言の苦手な児童もワークシートを利用したことにより、書くことで自分の考えを表現できた。

### Ⅲ 生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫（第3分科会）

#### 1 分科会主題設定の理由

今日の社会は、科学技術の進歩や経済の発達が著しく、それに伴って私たちの生活は、大変便利で快適なものになってきた。しかし、生活の豊かさが同時に、自然環境の悪化をもたらした。また、物質的な豊かさを追求するあまり、人間が本来持っている美しい心、清らかな心を見失ったり、児童・生徒のいじめ、非行、自殺などの問題行動が顕在化したりしてきた。このような時代だからこそ、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、豊かに生きることの意味を学ぶ道徳教育の充実は必要であると考えた。

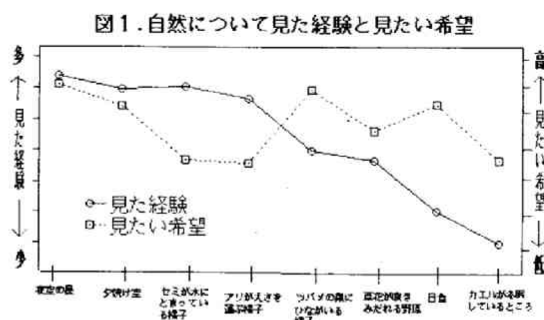
第3部科会では、研究主題の「よりよく生きる力を育てる道徳授業」の「よりよく生きる力を「生きることのかけがえのなさに気づき、自らを高めようとする力」ととらえた。その力を育てるためには、主として生命や自然や崇高なもののかかわりの中で、それらの尊さや美しさに感動し、畏敬の念をもつようになることが大切であると考えた。これらを道徳授業を核とし指導していけば、生きていることのかげがえのなさについての自覚が深まるであろう。そして、喜びと希望をもって生きていくことができるようになることを考え、分科会主題「生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫」を設定し、研究主題に迫ることとした。

#### 2 児童の実態調査

- (1) 調査のねらい 自然や命や崇高なものに対する児童の経験と意識をつかみ、指導の工夫に役立てる。
- (2) 方法 一部自由記述を含む選択技法による質問紙調査を行った。質問内容は全学年共通とした。ただし、一部の質問については第3または第4学年以上のみを対象とした。調査対象は、東京都公立小学校児童（7校1～6学年、計679名、9月実施）である。
- (3) 結果と考察

まず、児童が自然と触れ合った経験及び触れ合いたいという気持ちの有無を調べるため、自然との触れ合いに関する幾つかの項目のそれぞれについて、実態と今後の希望を尋ねた。図1は、結果の平均値をとり、それを一つにまとめたものである。

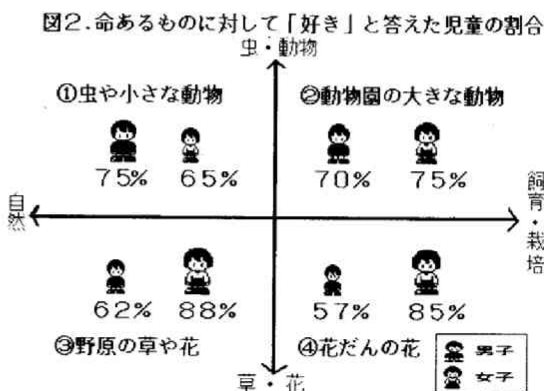
すなわち、児童はふだん見ることができない珍しいものには当然のことながら心をひかれるものの、一方で、日常目に触れる機会の多いものの中にも心動かされるものの存在することがある。今回の調査では、夜空の星と夕焼けがそれに当たるが、これに類したものが他にも存在するであろう。それらを題材として取り入れることで、道徳教育をより豊かに展開することができると考えられる。



生命あるものに親しみ、大切にしようとする心を養うことは、道徳教育の欠かせない内容である。

しかし、昆虫や草花を大変好きな児童もいれば、そうでない児童もいることは、日常観察されるところである。では、好きな児童と好きでない児童の割合はどのくらいか、また自然状態にあるものと人工的に飼育・栽培しているものとは、児童の意識にどのような違いがあるのだろうか。

調査の結果を図2に示した。自然状態にあるものと飼育・栽培されているものとの比較では、際立った違いが認められない。自然状態にあるものを大切にすることを養いたいものである。

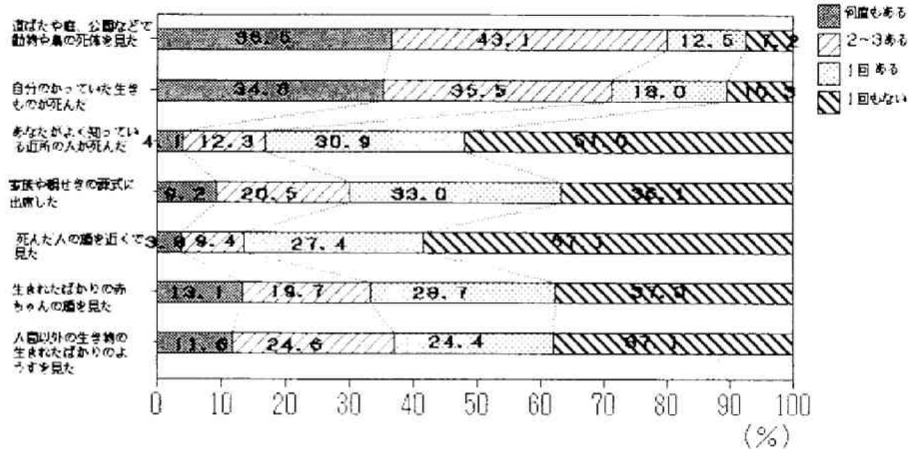




命あるものは生まれ、そして死ぬ。この自然の摂理が今児童に見えにくくなっているのではないだろうか。

こうした問題意識のもとに行った調査の結果を、図3に示した。その結果、人間の死や生き物の誕生についての体験が少ないことがわかった。このことから、命の重みを感じる機会があまりないのではないかと考えた。そこで、「命はかけがえないものである」ことの指導を重視する必要性を感じた。

図3. 生や死に関する体験



では、児童は自分自身の命、そして死についてどのような意識をもっているのだろうか。

結果は図4、図5の通りである。死後について考えたことの「とてもある」子が半数近い。また、自分の命より大切なものを書いてもらったところ、非常に多くの子から「家族」という回答が返ってきた。現在、命あるいは生と死についての教育が大切であるとされながらも、満足できる状況にあるとは言いがたい。しかし、この結果を見るかぎり、児童の（命の尊さを実感する）レディネスは十分あると考えられる。

図4. 自分が死んだらどうなるか考えたこと

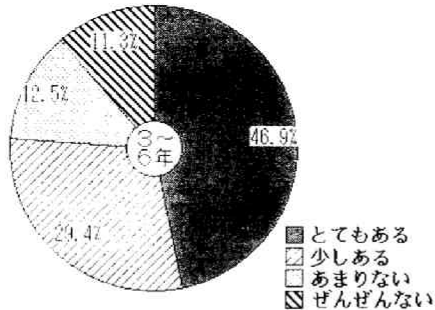
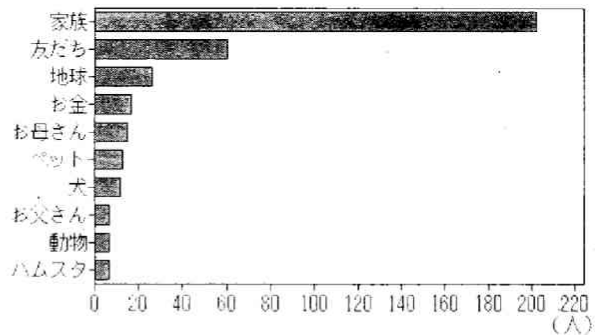


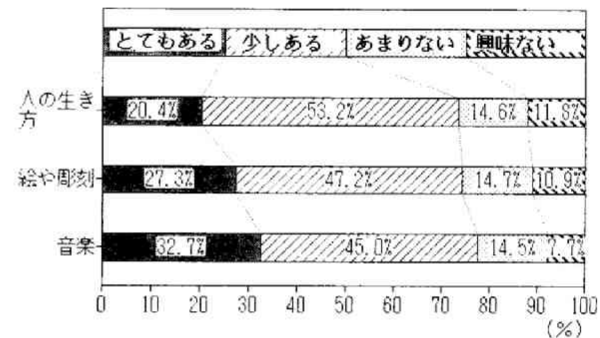
図5. 自分の命よりも大切なもの



最後に、図6は崇高なものに対する児童の興味・関心がどの程度か知りたいと考え、調査した結果である。

人、音楽、絵や彫刻の3点について尋ねた。ここでもやはり、崇高なものに触れたいという児童の積極的な様子をうかがうことができた。そこでこれらに触れる機会をより多く作るようにしたいと考える。

図6. 人の心を打つもの（崇高さ）に対する興味・関心



### 3 生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫

第3分科会では、生きることのすばらしさの自覚を深める指導の工夫として、

- 1 学習過程の中で資料に浸ることができる場の設定の工夫
- 2 登場人物の心情に迫ることができる学習活動の工夫

いう2つの柱を考え、研究仮説の検証を目指した。

#### 《道徳の時間の指導》

##### 資料選定の視点

- ・自然の美しさ、生命の尊さ、遂行なものに対する恐れなどを感じ取り、深く考えることができるもの。
- ・自分の体験から、身近に考えることができるものか、それに近い経験ができるもの。
- ・今まで気付かなかったことをあらためて感じるすることができるもの。

導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいに関連する歌を歌い学習意欲を高めた。</li> <li>・具体的なイメージをもてるように、登場する物の模型を提示した。</li> <li>・体験したことを想起できるような、ねらいに関連する発問をした。</li> </ul> <p>以上のことを通して、展開で資料を身近なものと感じ、敬虔な世界の雰囲気になれるように工夫した。</p>
展 開 前 段	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 資料に浸ることができる場の設定にかかわる工夫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料提示では、教室いっぱいの切り絵や、幻想的な紙芝居を活用した。同時に、音楽を利用して資料に十分浸ることができるようにした。</li> <li>・難しい言葉については説明をするなど情景をつかみやすく、場面の理解に役立て、雰囲気をつかみやすくした。</li> </ul> </li> <li>2 登場人物の心情に迫ることができる学習活動の工夫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然、生命、崇高なものに関する資料では、登場人物は人間以外のものが多い。したがって、その心情を理解するため、動作化や役割演技を十分用いた。</li> <li>・中心発問においては、それまでの場面の情景や心情をもう一度振り返った後、                 <ul style="list-style-type: none"> <li>低学年では、登場人物の表情を描いたり動作化したりした。</li> <li>中学年では、役割演技やワークシートを使った。</li> <li>高学年では、グループに分かれて話し合いをした。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> <p>各学年に応じて一人一人が十分に自分の考えを表現できるようにした。</p>
展 開 後 段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で深まった思いや、新しく気付いたことを多くの児童が表現し、互いの思いや感動を共有できるように十分な時間を確保した。</li> <li>・これからの自分の生活を一層高めようとするために、自分の身の回りにあるねらいに関連することがらにも気付けるようにした。</li> </ul>

終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の美しさや、生命の尊さ、崇高さに感動できるビデオを用いた。</li> <li>・身近にいる人間の生き方が感じられる写真を用いた。</li> <li>・教師が感動した体験を話した。</li> </ul> <p>これらのことにより、授業で深まった思いや新しく気付いたことを大切に、余韻をもって授業を終えるようにした。</p>
----	--

#### 《日常生活での指導》

日常生活において、生命や美しいものに目を向けるように働きかけていけば、それらに感動する心の芽がふくらんでいくようになる。

- ・季節がおりなす自然の美しさ、厳しさにふれて。
- ・偉人の話や芸術作品に感動して。
- ・生命の誕生や死にふれて。

これらのことを児童が学校内外でどれだけ体験しているかを日記や作文などを通して把握し、紹介したり、じかにふれたりするといった体験の機会を設ける。

- ・各教科、特別活動との関連も重視し、年間計画の中に位置付ける。

#### 4 実践事例（3 学年）

- (1) 主題名 美しい心（3－③）敬けん 資料名 「ゆうどうえんぼく」
- (2) ねらい 美しい心の世界にふれ、清らかな心をもって生活しようとする心情を育てる。
- (3) 指導の実際（抜粋）

T 幻想的な絵を提示しながら、紙芝居ふう資料を読み聞かせる。

美しい情景を思い浮かべられるように、幻想的な絵を音楽と共に示し、読み聞かせをしたことで、児童は十分に資料の世界に浸ることができた。

T どうでしたか。心に残ったことを話してください。（挙手による相互指名）

C 「40年ぶりだ。」といって工事のおじさんが揺すったところが心に残った。

C おじさんが揺らしていい気持ちになったところがよかった。

C もくせいは優しいなあと思った。

C 最後の「花の勲章だったのです。」というところが心に残った。

物語の幻想的な雰囲気壊さないようにゆったりと間を取って発問した。児童は心にくらんだ様々な情景を伸び伸びと表現していた。

T （泣いているゆうどうえんぼくをもくせい慰める場面を押さえ）ここを劇にしてもらいましょう。（もくせい、ゆうどうえんぼく各9人指名。2人1組で演技した。）

⑤：君が来たとき、ぴかぴかの木だったよ。

㊤：でも、いいんだよ。もうせいっぱい、子ども達と遊んできたから。

㊦：じゃあ、ぼくの花をおくってあげるよ。

㊧：ありがとう。

活動を重ねるうちに次第に登場人物の心情に共感できるようになってきた。学級全員が2人1組になって同時に役割演技をすることも考えられる。

T このように、声をかけてくれたもくせいのことを、ゆうどうえんぼくはどう思ったでしょう。(ワークシート)

C もくせいさんはやさしいな。

C いいにおいをありがとう。長生きしてね。

C 天国で、励ましてくれたお返しをするよ。いい気持ちだなあ。

ワークシートに自分の考えを書くことにより、1人1人がもくせいの心の美しさを感じ取ることができた。

T みんなが毎日生活している中で、美しいなあ、きれいだなあ、不思議だなあと思ったことはありますか。

C 夕焼け空がすごかった。ほっとした気持ちになった。

C 海の近くの民宿で、くらげが光っていて、きれいだなあと思いました。

C オーロラって不思議だなあと思う。

C 今日、僕が筆箱を出すのを忘れていて、〇〇さんと〇〇さんが貸してくれて、〇〇さんと〇〇さんの心がきれいだなあと思いました。

美しいものにふれたときの気持ちも合わせて聞いたことで、児童は心がふるえたり、感動したりしたことを思い起こすことができ、温かい雰囲気ですべてを終えることができた。

#### (4) 考 察

美しい絵を提示したとき、児童は「うわぁ！」という歓声を上げ、感動をもって資料に入り込んできた。

児童の心情が高まっていくように、物語の展開や事実を明らかにしてから発問した。

自分を振り返る学習では、自然の美しさにとどまらず、さらに人の心の美しさに気付いた児童もいた。

さらに普段から美しいものに触れたり、心がふるえたりする体験をたくさんすることは、児童が生きる喜びを感じる上で、非常に大切なことである。

## IV 奉仕の心を育てる指導の工夫（第4分科会）

### 1 分科会主題設定の理由

今日、社会はめまぐるしく変化している。その中で温かな人間関係が薄れ、思いやりの心が失われつつあるという指摘がある。子供社会でも、自分に関係のある人や利害関係のあるものに対してはかかわりをもとうとするが、それ以外に対しては無関心であったりする。現実を目を移すと、高齢化問題・環境問題等、個人のレベルだけでは解決しようもない大きな問題が表れている。

今、集団の一員としての自覚をもち、力を合わせて社会や集団に貢献しようとする心の育成が必要である。それは、奉仕の心である。

奉仕の心には、大きく「勤労」「奉仕」の二つの面がある。勤労と奉仕は、表裏一体のものであり、それが相乗しながら高まっていく中で奉仕の心が育つものと考えた。

勤労・奉仕の喜びは、実際に体験することから生まれる。しかし、家庭や地域における勤労体験の場は少なくなっている。そこで、学校生活における様々な活動を通し、働く楽しさや喜びの体験を積む必要がある。更に道徳の時間では、友達の体験を聞いたり自分の体験を振り返ったりする中で、力を合わせて仕事をする事の大切さ、人や社会の役に絶つことの清々しさなどを実感し、進んで社会や集団の役に立とうとする奉仕の心を育てていきたい。

### 2 実態調査

(1) ねらい 勤労や奉仕に関する児童の体験や考えを把握することにより、「奉仕の心を育てる」指導の工夫に役立てる。

(2) 方法 選択肢法及び記述法を用い、全学年同一内容及び一部中・高学年向けに実施した。

調査対象は、都内8か所の小学生合計2,109名とした。

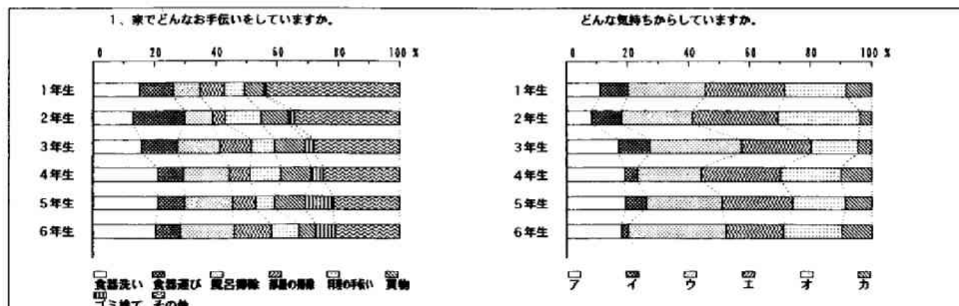
(3) 結果と考察

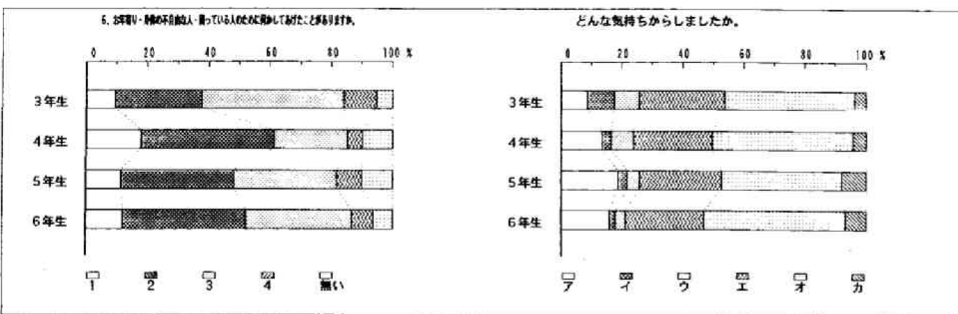
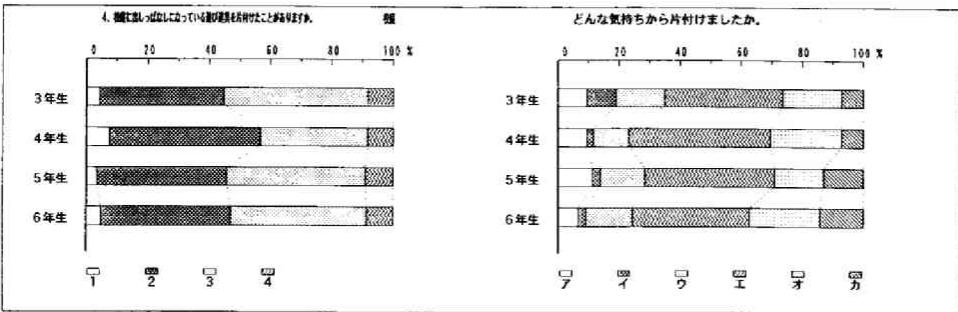
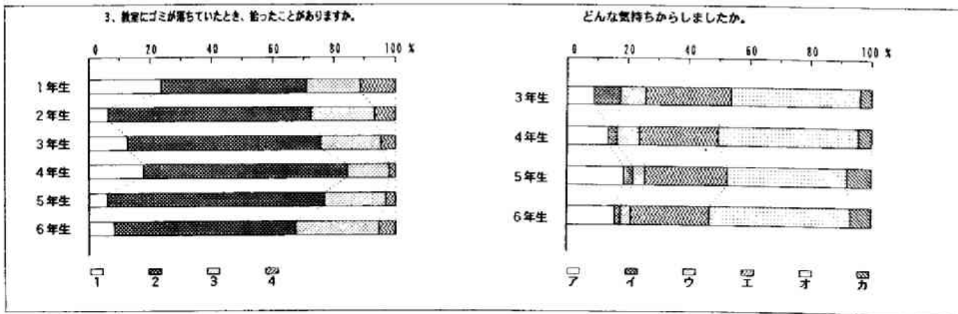
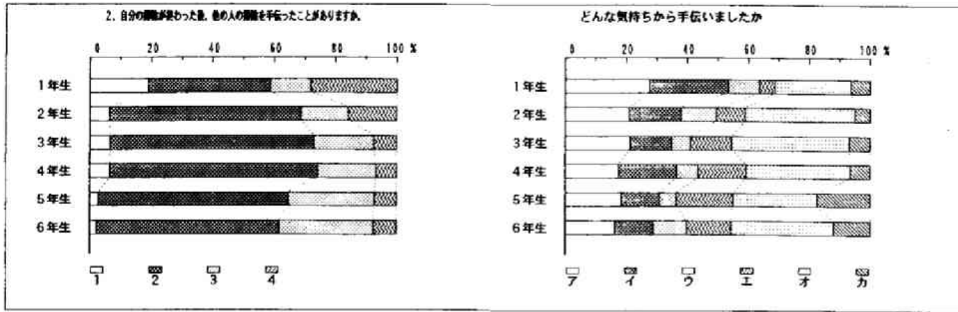
#### <頻度>

- 1 いつもしている
- 2 ときどきしている
- 3 1回位したことがある
- 4 したことがない

#### <動機>

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ア 自分のためにする   | オ みんなのためにする |
| イ ほめられるからする  | カ その他       |
| ウ 言われたからする   |             |
| エ 決まりがあるからする |             |





〔考察〕

家や教室等、身近な場面では、全学年を通じて7割近くの児童が手伝いや掃除など進んで行っており、奉仕の心が育っていると考えられる。反面、学校や地域など場面が広がると進んで参加する児童も5割以下になり、高学年では地域等へ目を向ける指導が必要と考える。また、動機をみると家族・友達・高齢者のためなど対象が人間の場合には、相手のことを思って手伝ったり助けたりする傾向がある。しかし、清掃や道具の片付けなど対象が物になると、決まりがあるから仕方なく活動するという面が見られるので、公共心などとも関連させて指導していく必要がある。

### 3 奉仕の心を育てる指導の工夫

第4分科会では、研究仮説の検証を目指して、以下のような研究の視点を設定し、指導の工夫を試みた。

〔研究の視点〕

#### 1. 児童が主体的に学習に取り組むための指導の工夫

奉仕の心を育てるには、児童が勤労・奉仕に対する今までの体験を自ら振り返ることができる道徳授業を構想することが必要である。個々の児童の実態や興味・関心に応じられるような指導を工夫すれば、児童は主体的に学習にかかわろうとし、自分の体験を振り返ることができるのではないかと考えた。

#### 2. 児童が体験を思い起こすための指導の工夫

勤労・奉仕の心は実際に体験することから生まれる。道徳の時間においては、友達の体験を聞いたり、自分の体験を振り返ったりする活動を重視したい。児童が体験をより多く思い起こすような指導を工夫すれば、自分の生き方をより深く振り返ることにつながるのではないかと考えた。

奉仕の心を育てることに直接かかわるもの	
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年では、家の手伝いに関連する指導内容を取り上げた。</li> <li>・中学年では、勤労に関する指導内容を取り上げた。</li> <li>・高学年では、勤労の尊さ・社会への奉仕に関連する指導内容を取り上げた。</li> </ul>
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎資料提示にTPを活用することで楽しい雰囲気をつくり、同時に資料の理解を容易にし、学習に主体的にかかわろうとする意欲が高まるようにした。</li> <li>◎働くことに関する実態調査を表で提示し、興味・関心が高まるようにした。</li> <li>◎主たる資料のイメージを鮮明にするために写真やビデオを活用した。</li> </ul>
展 開 前 段	<p>〔研究の視点1〕にかかわるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎児童から資料中で話し合いたいところを聞き、それを生かした学習過程にした。</li> <li>◎登場人物の気持ちについて、想像したことをカードに書き、それをもとに学習を進めた。</li> <li>◎「心情バロメーター」を各自が操作することにより、心情の変化に気付けるようにした。</li> </ul> <p>〔研究の視点2〕にかかわるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎役割演技を取り入れ、体験に基づく感じ方、考え方に気付けるようにした。</li> <li>◎葛藤場面を作ることにより、児童の勤労についての考えが出やすいようにした。</li> <li>◎資料をもとに、児童の内面が吐露されるよう発問を工夫した。</li> <li>◎グループでの話し合い活動を取り入れ、ねらいとする価値に関する多様な考え方に気付くことができるようにした。</li> </ul>

展 開 後 段	<p>〔研究の視点1〕にかかわるもの</p> <p>◎児童の生活を振り返る場面で、児童が表現方法を選択できるようにした。</p> <p>◎意見交換したい友達を自分で選んで話し合う場を設けた。</p> <p>〔研究の視点2〕にかかわるもの</p> <p>◎今までの自分を振り返りやすいように視点を示した。</p>
終 末	<p>◎児童作文や教師の説話を聞いたり、日頃の実践を励ます教師からの手紙を読んだりすることにより、実践意欲を高めるようにした。</p>

他教科・領域との関連を図るために

- 事前・事後指導を充実し、児童の実践意欲を高める。
- 各教科・特別活動との関連を図り、奉仕的な活動の機会を設ける。
- 児童の体験を重視するために、各教科・領域との関連を指導案に盛り込む。

#### 4 実践事例（第3学年）

- (1) 主題名 働く喜び・大切さ（中4-(2)勤労・奉仕) 資料名 「パン屋の仕事」
- (2) ねらい 働くことの喜びや大切さに気づき、進んでみんなのために働こうとする心情を養う。

##### (3) 指導の実際

- T きよ子さんの気持ちで、みんなで話し合いたいという場面はどこですか。
- C 最後の方で「私にも手伝わせて」と言ったところ。
- C お母さんたちが早起きして、きよ子さんが見ているときの気持ち。
- C お父さんがすごく忙しそうに仕事をしていたところ。

児童から資料について話し合いたいところを聞き、それを生かした発問を構成したことは、児童の主体的な学習を促す上で効果的であった。

- T きよ子さんはお母さんの仕事の様子をしばらく見ていたね。この話の続きを劇にしてみよう。
- C<sub>1</sub>（きよ子役）私にも手伝わせて。
- C<sub>2</sub>（母役）お母さんがやるからいいのよ。
- C<sub>1</sub> 分かりました。（間）やっぱり手伝うわ。
- C<sub>2</sub> お母さんがやるからいいのよ。
- T 一度中断して二人の話の間を聞こう。きよ子さんは「お母さんがやるからいいのよ」と言われて一度やめたけれど、もう一回言いましたね。どういう気持ちで言いましたか。



- C<sub>1</sub> お母さんがすごく忙しそうだったから。  
T お母さんはもう一回「手伝わせて」と言われたのに「お母さんがやるからいいのよ」と言いましたね。どうしてですか。  
C<sub>2</sub> やらせてあげたいけど、パンの作り方を知らないと思う。

学習過程の中に役割演技を取り入れたことは、学習に変化を与え、児童が意欲的に学習に参加することにつながった。反面、役割演技は興味本位に流れてしまったり一部の児童のみの学習になってしまったりすることがある。そこで、学習活動のねらいを明らかにしていくことや日頃から学習の中に役割演技を取り入れていくことなど、改善を重ねていく必要があると感じた。

- T きよ子さんは自分から進んでお手伝いをしましたね。みなさんは、自分から進んで働いたことはありますか。その時、どんな気持ちでしたか。(板書)  
書いて考えた方が思い出しやすいという人は後ろに行って書いてください。書く紙は3種類あります。好きなものを使っていいです。私は書かないで話し合った方がいいという人は前の方に集まって友達や先生と話し合ひましょう。書き終わった人は、前のグループに戻って来ててください。

児童が表現方法を選択できるようにしたことは、多様な表現の仕方に応じる上で有効であった。

(話し合い活動に9名、書く活動に25名)

[話し合いグループの活動の一部]

- C お母さんが洗濯物を干していたから、その時私は遊んでいて、やることがなかったからお母さんの仕事が一つでも減るならいいと思って手伝いました。  
[書くグループのワークシートより]  
C 一週間ぐらいだけど、家の前を箒で掃いたことがあります。やっている時、家のおばあさんが「えらいね」と言ってくれたので嬉しかったです。

#### (4) 考 察

- ・ 展開後段で今までの自分を振り返る場面では、資料の内容から「家庭での仕事」についての発言が多かった。いろいろな場面に広がるためには、導入で教師の説話をしたり展開後段に入る前に本資料とは違った場面の補助資料を用意するなどの工夫が必要であった。
- ・ 児童の反応・発言は、全て児童の今までの体験に基づいていることが分かった。したがって日常生活において豊かな体験を重ねることの重要性をあらためて実感した。

## ◇研究の成果と今後の課題

研究主題「よりよく生きる力を育てる道徳授業」の解明を図るために、道徳の指導内容の4つの視点から分科会を構成し、それぞれに「目指す児童像」「分科会主題」「仮説」等を設け、具体的な授業実践を通して研究活動を進めてきた。

その結果、次の点が明らかになった。

### 1 研究活動全体を通して

人間としてよりよくいきようとする願いを実現するためには、一人一人の児童が自らよさを求めて、何がよいかを探りながら生きている、ということを教師自身が信じ、それに力を貸そうと願うことである。そして、肯定的で、受容的で、共感的な愛情ある児童理解をすることが大切である。このように教師から理解された児童は情緒が安定し、自分の感じ方や考え方に自信をもち、勇気をもって伸び伸びと表現できるようになる。教師と児童との信頼関係ができてくると、児童相互の人間関係も豊かなものになっていくのである。

さらに、本質的な道徳指導を実践するためには、思い切った道徳授業の改善を図ることが必要である。児童一人一人が主体的に追究できる学習過程、多様な学習活動や学習形態などの創意工夫である。しかし、何よりも大切なのは人間を人間として尊重する「人間尊重」の自覚、そして、人間としての生き方の追究を行うことである。

このようなことについて、根本的に考え、授業改善を試みることができたことは非常に意義のあることであった。

### 2 各分科会の研究活動を通して

第1分科会では、「自分を振り返り、肯定的な自己理解ができ、向上していく児童」を目指し、研究を進めてきた。このような児童を育てるためには、児童が自分自身に関して肯定的な理解ができるようにすることが何より大切であることが分かった。

第2分科会では、「素直に心を開き、互いに認め合い、高め合おうとする児童」を目指し、研究を進めてきた。その結果、児童一人一人が、互いの心が通い合い、理解し合うことの喜びを感じることができる工夫をすることの大切さが分かった。

第3分科会では、「生きることのすばらしさを自覚する児童」を目指し、命の尊さや自然や崇高なものに感動する心の育成を目指し、研究を進めてきた。その結果、資料吟味と同時に授業全体を通して資料がもつ雰囲気児童が十分に浸れるように工夫することが大切であることが分かった。

第4分科会では、「集団や社会のために進んで行動できる児童」を目指し、研究を進めてきた。その結果、働く意義や喜びに気付き、自らの体験を振り返ることができる指導の工夫をすることが大切であることが分かった。

今後の課題としては、更に一人一人の児童が自分のよさを生かし、主体的な学習ができるように、指導過程をはじめ、道徳の時間の指導の在り方を創造的に工夫・改善していく必要があると考える。